



天王寺川中学校3 年生学年通信 NO.3

2019年5月24日発行

タイトル字デザイン：岡本結依さんのコメント
一念通天の「一」の下にはハイビスカスを描いて修学旅行で行く沖縄を、「念」は体育大会を、「通」は受験を、「天」は卒業式をイメージして描きました。すべての行事が最後になるので、何事にも全力でみんなが楽しめたらいいなという思いをこめました。



修学旅行が目前に迫っています。



新しいクラスになって1か月が過ぎました。新しいクラスにも慣れてきて、修学旅行が更に楽しみになったことでしょう。中学校生活の中で最大のイベントとも言える修学旅行です。良い思い出にするためにも、学ぶ意識を高くして一つひとつの取り組みに臨んで欲しいです。

さて、修学旅行に向けた学年スローガン・各クラスのスローガンが決まっていますのでご紹介します。それぞれのスローガンを達成できるようみんなで頑張りましょう！

★★学年スローガン★★

3Deepen－学びを、絆を、関わりを－

1 組	みんなが主役に！！ ～Everyone the leading role～
2 組	Study Try Enjoy Peace
3 組	学～自主自立～
4 組	おおきくなかよくわらえ4組 ～君の瞳に乾杯～
5 組	MOVE ～みんなのために自分から～
6 組	Enjoy 勢 —Don't forget learning—
7 組	なんくるないさー ～仲間と助け合い団結する3-7～

○私たちの平和宣言○

修学旅行の初日に平和祈念堂・平和祈念公園を訪れ、平和セレモニーを行います。そこでは「私たちの平和宣言」と題し、平和宣言文を代表生徒が読むことになっています。

この平和宣言文（裏面に全文）は、今年2月に平和学習の一環として、明石家さんま主演の『さとうきび畑の唄』（2003年放映）を鑑賞しました。宣言文は鑑賞後にみんなが書いた文章を基にしました。みんなも知っているとおり、沖縄は地上戦を経験した島です。戦争で家族を失う悲しみ、残された者の苦しみ、ルールなど存在しない戦場——戦争の悲惨さについて考え、平和を改めて見つめ直した天中3年生の気持ちを込めています。

また、その宣言とともに『花は咲く』（作詞：岩井俊二 作曲：菅野よう子）を学年合唱として歌います。「東日本大震災プロジェクト」として作られたこの曲ですが、亡くなった方々に想いを馳せるというのは、この平和宣言を行う場にふさわしいのではないのでしょうか。

もう二度と起こしてはいけない。戦争などという許されないことは。その想いをこめて、宣言してきます。
(文責：木村駿介)



セレモニーの時に
献納する千羽鶴
(学年全員で作りました)

私たちの平和宣言

一足早い春が大地を色づかせ、新たな命が芽吹いたかと思うと、あっという間に夏の訪れ。

この大地で起こった 74 年前の、あの夏の出来事を、私たちは忘れてはならない……。地上戦があった地、沖縄のことを。

たくさんの人が家族とバラバラになり、傷つき、傷つけられ、犠牲になってやっと終わった沖縄戦。

昔、日本でこんなことがあったという事実と、沖縄の人々の悲しみがこれから先も消えることはないと思うと心が痛くなる。私の歩いた場所が、戦場として人が殺し合っていたということを想像すると、胸が苦しくなる。同じ人間同士なのに、どうして分かり合えなかったのだろう。戦争は、悲しみや苦しみが生まれない。失うものしかない。たくさんの人の命を奪うことで解決できる問題なんてないのに。

でも、アメリカ兵にも家族がいただろう。本当は人を殺したくなかったんじゃないか。アメリカ兵も日本兵も悪くない。同じ人間なんだから、きっと理解し合えたはずだ。

けれど……。戦争は、人の心を麻痺させてしまう。命の重みを簡単に変えてしまう。中には、自ら命を絶つ人もいた。その命は、数え切れないほどのたくさんの人々の命が積み重なって生まれた奇跡の結晶だ。その命を大事に育ててきた人がいる。その命が無くなったら、命を紡いできた人たちは、どんな思いになるだろうか。将来なりたいもの、やりたいこと、叶えたい夢もあっただろうに。いくら幸せを積み重ねたとしても、一瞬で壊れ、当たり前が当たり前でなくなってしまう。人間を人間でなくし、人権なんか全くない世の中になってしまった。戦争は、人の命を奪い、家族を奪い、希望まで奪ってしまう恐ろしいもの。戦争が終わったとしても、その後の人生は決して明るいものではない。人の未来をも奪ってしまうのだ。戦争は、沖縄の豊かな自然も奪っていった。

しかし、戦争を起こしたのも、私たち人間だ。そのまざれもない事実、真摯に受け止めるなければならない。いつの時代も、戦争をしようと思えばすぐにできてしまうだろう。だからこそ、私たちは、戦争の恐ろしさ、残酷さをしっかりと胸に刻み、平和を願う気持ちを次の世代に伝えていく使命や義務がある。

戦時中の悲惨な状況下においても、周囲の人々や笑顔を大切にし、明るく懸命に生きようとした人々がいた。悲しみの中でも他者を思いやり、優しさを忘れず、笑顔を絶やさなかった人々がいた。私たちが学ぶべき姿は、ここにあると思う。また、現在、私たちが戦争をしてはいけない、したくないと言えるのは、過去の教訓を活かし、戦争放棄に関する憲法があり、公平な立場から教育を受けられているからだとも思う。これらは、

戦争の悲しみを乗り越えた先にあるものなのだとすることを噛みしめておかなければならない。

これらからの未来を作っていくのは私たちだ。平和な未来を作っていくのは私たちだ。その未来が、笑顔であふれる未来であるように……。

「私たちは、人を殺すために生まれてきたんじゃない。」

「私たちは、未来に平和を残し、幸せになるために生まれてきたんだ。」

「私たちは、たくさんの人と出会い、たくさん笑顔になるために生まれてきたんだ。」

笑うことは本当に良いことだと思う。笑うことで元気になったり楽しく過ごせたりする。辛いことがあっても笑い合っていれば、良いことが待っていると信じている。

ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃん。おじいちゃん、おばあちゃん。お父さん、お母さん。親戚のみんな。ご先祖様。生きて、生き延びて、私たちに命を与えてくれて、ありがとう。育ててくれて、ありがとう。

私たちは平和な未来を作っていくために、一人ひとりが命を大切にし、毎日笑顔で過ごしていけるようにしていきます。自分のことだけではなく、他の人のことも考えて行動していきます。どんな人とも、しっかりと気持ちを伝え合い、理解し合えるようにしていきます。家族、友だち、お世話になった人々、これから出会う人々、たくさんの人々を大切にします。自分の命を大切にします。他の人の命も大切にします。

私たちは、「令和」という新しい時代を生きていきます。この「令和」には「未来への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせよう」という願いが込められています。その願いが実現できるよう、新しい時代を担っていく私たち一人ひとりが、「笑顔」「希望」「平和への祈り」といった花々を咲き誇らせることができるよう、戦争で犠牲になった方々の分も精一杯生き、命をつないでいくことを誓い、平和宣言といたします。

令和元年 5 月 28 日 伊丹市立天王寺川中学校